

蒲生干潟の植物⑤①

2025年11月19日



↑ Fig.1 定点観測 ↓ Fig.2 分断されている導流堤の様子



Fig.3 エリアA ヨシ群 Fig.4 エリアD ケカモノハシ Fig.5 エリアF ウンラン Fig.6 エリアF ハマエンドウ Fig.7 エリアG オオマツヨイグサ

調査日 2025年11月19日 (水) 10:30~11:45

Fig. 1は定点観測の様子で前回調査とほとんど変わっていない。先月に引き続き水量が少なく七北田川と潟湖は分断された状態であった (Fig. 2)。エリアAのヨシは先月まで緑色の葉をしていたが、花の時期も終わり全体的に茶色に変わっていた (Fig. 3)。エリアD, Fの広範囲に点在して生えているケカモノハシも色付いてきていた (Fig. 4)。前回調査で一斉に開花していたウンランは既に花の時期も終わり、枯れ始めている様子であった (Fig. 5)。全体的に茶色に変色している植物の中でハマエンドウは鮮やかな緑色が目立っていた (Fig. 6)。今後ハマエンドウも地上部は枯れていき、地下に残る根で冬越しをする。前回調査で大きな花を咲かせていたオオマツヨイグサの個体群は枯れて既に見られず、今年発芽したと考えられるロゼット状の株が多数見られた (Fig. 7)。この状態は越冬草が冬を越すための姿であり、翌年の春に茎を伸ばしていく。蒲生干潟の海浜植物も全体的に冬越しの準備をしている様子が見られる。 (伊藤勝彦)